

安倍首相靖国参拝

JJ1SXA/池

安倍晋三首相は12月26日、靖国神社参拝をした、「戦場で散った英霊のご冥福をお祈りし、リーダーとして手を合わせる。世界共通のリーダーの姿勢だ」と強調し、「恒久平和への誓い」と題した談話を発表した。

当然、中・韓は猛反発、米国は「…失望している」との声明を出した、国内では朝日新聞が早速非難の記事を掲出しているし、他、多数のメディアが非難している。

以下は、桜井よし子氏(奏功せず、中国の「靖国参拝」政治利用)より引用…朝日新聞の中国総局長の古谷浩一氏は中国側発言を31日付で、(…中国政府関係者は「米国はじめ国際社会が日本を批判してますよ」と念を押すように語った…)と報じ、全体的には、中国の対日攻勢の高まりを望むかのように読めるような書きぶりだ…途中省略…中国は1月2日、イギリスの「ガーディアン」紙に駐英国大使の劉曉明氏の主張(「中英は共に戦い勝利した」)を投稿した。

「ガーディアン」がこれをどう評価したか? 同じ日の社説のタイトルは「中国と日本、ポットとヤカン」、つまり、「どっちもどっち」という意味だが。

〈…安倍首相の靖国参拝への中国の怒りには多少の正当性があるにしても、その怒りは非寛容極まる。中国は日本の挑発と言う、しかし尖閣周辺に軍事力を集中させるという自身の挑発に、中国は言及しない。中国は日本が予定する軍事力向上と軍事行動に対する制限緩和に怒りを表明する。しかし自らの空母の訓練には目をつぶる…〉と、少なくとも、中国の軍国主義的膨張を批判している、中国の横暴に気がついたということだろう。…引用終り

ヴァンダービルト大学日米研究協力センター所長ジェームス・E・アワー氏(1979年から1988年にかけて米国防総省に勤務している)は、産経新聞・正論で「米国は中韓にこそ失望すべし」と論じている。

また、大原康男・国学院大学名誉教授は、「首相は今後も堂々と参拝重ねよ」(12.27)、遠藤浩一・拓殖大学大学院教授は「観念的戦後に風穴開けた参拝」(1.3)との記事を書いている、尚、遠藤浩一氏は、この直後1月4日夜に急死した、享年55歳、惜しい保守論客を失った、合掌。

首相の靖国参拝を非難する人たちは、日中・日韓関係を悪くするというが、参拝を控えていた時に改善されたのか? 参拝後に劇的な変化があったのか? そんな事は関係無い、首相が参拝しようとするまいが、中・韓は、日本を非難することを続けなければならない国内事情があるのだ。

天皇陛下万歳を叫んで散っていった英霊達は、靖国で会うことを誓い、祖国日本を守るため、愛する家族を守るために、死地に向かったのだ、その英霊が祀られる靖国神社に参拝することを咎める日本人はとんでもない。 (17.Jan,2014 記)